

活発な活動展開

広島県 診断士会



米倉 田州 夫 会長

「黒く汚れるものだ」といふイメージを無意識のうちには抱かせることになり、このことは、せひとも払拭しなければならぬという思いが会員皆から沸き上がり、まず平和の灯の調査・補修作業を会員のボランティアで行うことになった。原爆慰霊碑は最初1952年に鉄筋コンクリートで作られていたのに1985年に御影石に切り替えられている。そのため、昨年5月にオバマ大統領が慰霊碑に参拝された状況がテレビに映し出された時、慰霊碑は大変美しかったのに、その後ろにある平和の灯は黒く汚れているのが写し出された。

「平和の灯」調査と補修

軍艦島見学等で研さん

「平和の灯」の健全度調査や補修作業の発案について米倉会長は以下のように説明する。

「平和モニタメントを汚れた劣化した状態にしておくことは、平和公園を訪れる多くの世界の観光客に『コンクリートは

進行が明らかとなり、今年1月には同会の徳納武使事務局長（福徳技研社長）が会長を務めるコンクリートメンテナンス協会と共同で高圧洗浄と各種表面補修材による補修試験を行い、6～7月には再度表面の高圧洗浄を行った後で、補修工事を行っている。いずれもボランティアでの取り組みで、試験や施工当日は地元テレビ局や一般紙も取材に訪れ、大きく報道。米倉会長は「当会の活動を一般の方々にも知ってもらいたい機会となり、コンクリート診断士の認知度・社会的評価が少しでも高まれば」と述べている。適切な補修補強によって、今後10年間でさえもきれいで、健全なコンクリート構造物を実現できるということ

を多くのの人々に認識してもらいたい機会になったと話していた。

広島県診断士会は①コンクリートの調査・診断・補修技術に関する情報収集と会員への提供、②技術情報の体系立てた入手・蓄積を行い、これを会員に提供、③会員の研修、技術交流による活動の研さん―研修

を要する事態には、調査チームを組織するなど、公共に寄与する支援活動に取り組んでいる。

4年8月1日に平和の灯



建設委員会によって建立。意匠設計は丹下健三氏、構造設計は坪井善勝氏が担当した。高さ4×幅13×奥行8の鉄筋コンクリート（RC）製モニタメント。

昨年5月の調査はドローンを用いた空中からの写真撮影や地上からの3次元測量と精密写真撮影による「寸法・外観計測調査」をはじめ「外観目視調査」、非破壊試験も適用した「コンクリート・鉄筋調査」、塗装・塗膜美観調査」を実施した。

表面はコケやカビで黒く汚れており、米倉会長は「施工時の湿潤養生が不十分で、表層部分がポーラス状を呈していたためカビやコケ類が生息しやすい環境となっていたようだ」と指摘する。下面には過去に補修した部分があり、局所的にはかなり不足もあって中性化による鉄筋腐食も見られた。調査の概要は米倉会長、鈴木副会長の連名で日本コンクリート工学会（JCI）発行の「コンクリート工学」今年4月号に寄稿している。また、土木学会誌今年12月号に「地域レポート」として鈴木副会長名で補修工事まで含めて掲載される予定である。

調査結果を受けて今年1月にコンクリート表面高圧洗浄・補修材塗布試験、6月19日・20日・7月3日・4日にはボランティアによる本格的な補修工事を行った。高圧洗浄によって表面のコケやカビはかなり落とすことができ、高圧洗浄後に浮き、はく離・鉄筋露出箇所を防せし処理・断面修復補修し、そのあとに表面含浸材を塗布した。以前、補修した部分は周辺と色が明らかに異なるため、セメントと同色の絵を描いて目立たないようにしている。

一方軍艦島での研修会の交流も積極的に進めている。

昨年5月に「平和の灯」健全度調査、今年1月と6～7月に補修工事を実施